市指定文化財 75 件

1 伊多波刀神社奉納流鏑馬

2 高御堂古墳

3 覚明霊神誕生地

4 篠木合宿絵馬

5 絹本着色十二天画像（12幅）

6 曽呂利惣八所持刀

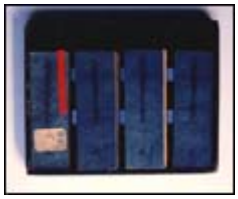
7 明治天皇坂下行在所旧跡

8 明治天皇内津御小休所旧跡

9 明治天皇下原新田御小休所旧跡

10 密蔵院文書

11 内々神社宝剣（3振）



12 紙本墨書大般若経(600 巻)

13 春日井木遣り

14 密蔵院建造物（6棟）

15 伝道風筆法華経断簡（26行切）

16 伝道風筆新楽府断簡（4行切）

17 十五の森

18 蓋付台付壺

19 広口壺

20 環鈴

21 木造大日如来坐像

22 絹本着色十六羅漢図（16幅）

23 鰐口

24 木造本地仏坐像（5躯）

25 庚申像附厨子

26 経机

27 寒山拾得（2幅）

28 達磨画像

29 慈妙上人画像

30 寂蓮法師和歌

31 慈鎮和尚和歌

32 元三大師堂厨子

33 下街道の古井戸

34 尻冷し地蔵

35 行者寺行者堂

36 円福寺観音堂附棟札6枚

37 円福寺仁王（2躯）

38 密蔵院宮殿型厨子

39 絹本着色愛染明王像

40 絹本着色愛染明王像

41 絹本着色十一面観音菩薩坐像

42 紺紙金泥金胎種子曼荼羅

43 絹本着色三千仏像(3幅)

44 寺額蜜蔵院

45 神額東照大権現

46 木造阿弥陀如来坐像

47 木造不動明王立像

48 木造毘沙門天立像

49 柄香炉

50 前机

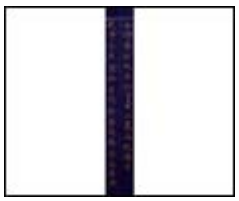
51 絹本着色仁済宗恕画像

52 四つ建て民家

53 内々神社御舞台

54 紙本着色越伝道付画像

55 木造越伝道付坐像



56 伝道風筆紺紙金字法華経断簡(信解品2行切)

57 伝道風筆紺紙金字法華経断簡(如来寿量品8行切)

58 阿娑縛抄

59 銅鐸

60 木造十一面観世音菩薩立像

61 十一面観世音菩薩立像画像版木

62 木造聖観世音菩薩坐像

63 華鬘

64 木造薬師如来坐像

65 玉野山車附からくり

66 下原古窯跡群

67 築水池のシデコブシ自生地

68 木造観音菩薩立像

69 木造地蔵菩薩立像

70 木造阿弥陀如来立像

71 木造地蔵菩薩立像

72 木造十一面観音菩薩立像

73 木造僧形坐像

74 木造女神坐像

75 円福寺観音堂厨子

76　旧中央線のイロハモミジ

詳細については、次ページにあります。

1 伊多波刀神社奉納流鏑馬

（いたはとじんじゃほうのうやぶさめ）

【区　分】
市指定
【種　別】
無形民俗
【時　代】
江戸時代
【サイズ】
【所有者等】
伊多波刀神社
【所在地】
伊多波刀神社
（上田楽町 3454）

流鏑馬（やぶさめ）とは、走る馬に乗って矢で的を射るもので、平安時代末期から鎌倉時代にかけて盛んに行われました。上田楽（かみたらが）町にある伊多波刀神社は、付近17ヶ村の総鎮守（そうちんじゅ）として信仰を集めた神社で、秋祭には古式にのっとった流鏑馬神事が行われていました。江戸時代の「尾張名所図会」などに、幟（のぼり）、太刀、槍を持った人々を始め、神主や神輿を担ぐ人々が神事を行い、その後流鏑馬を行った記録が残っています。
明治時代になると流鏑馬は衰えて、次第に行われなくなってしまい、甲冑（かっちゅう）を着けた武者の行進や射的が行われていましたが、令和元年からは甲冑を着けた武者が馬を走らせながら的を射る甲冑騎乗流鏑馬が復興されました。

[鎮守]
氏神や地主神など村に鎮座する神。
[太刀]
儀式用、軍事用に用いられる刀剣。反りがあり湾曲している。

2 高御堂古墳

（たかみどうこふん）

【区　分】
市指定
【種　別】
史跡
【時　代】
古墳時代
【サイズ】
墳長約 63m
【所有者等】
春日井市
【所在地】
高御堂公園内
（堀ノ内町 5 丁目 11-1）

高御堂古墳は、春日井市内唯一の前方後方墳で、墳長は約 63mあります。墳丘斜面を川原石の葺石で覆い、テラス面には赤彩した壺形埴輪を約 2mの間隔で配置したと推定されます。年代は、壺形埴輪から 4 世紀前葉と推定され、市内では最も古い古墳の一つです。後方部墳頂に埋葬施設の竪穴式石槨(たてあなしきせきかく)を検出し、天井石は既に失われていましたが、川原石を多用して構築した特異な構造が確認されています。石槨は埋め戻して保存していますが、内部は未調査のため副葬品等は不明です。

[前方後方墳]
二つの四角を組み合わせたような形をした古墳時代のお墓。
[葺石]
墳丘に葺かれた石。

3 覚明霊神誕生地

（かくめいれいじんたんじょうち）

【区　分】
市指定
【種　別】
史跡
【時　代】
江戸時代
【サイズ】
ー
【所有者等】
覚明霊神史蹟保存会
【所在地】

（牛山町 431）

覚明霊神は、享保 4 年（1719）現在の牛山町で生まれました。俗名を丹羽仁右衛門（にわじんうえもん）といいます。20 代で出家し、四国の霊場を幾度も巡拝するなど修験者として厳しい修業を続けていた覚明は、7 回目の巡拝中の明和 3 年（1766）、高知県の山中で法力を得て、覚明という名と鉦鉆石（しょうこいし）を授かりました。その際「信濃国の御嶽山を開け」という神のお告げを受けて郷里に帰った覚明は、まず恵那山を開き、次に御嶽山開山をめざしました。村の庄屋などから激しい迫害を受けましたが、覚明はそれに屈することなく、天明 5 年（1785）ようやく御嶽山開山を果たしました。現在誕生地には、覚明霊神像や産湯の井戸などがあり、覚明霊神史蹟保存会が遺徳の顕彰に努めています。

[俗名]
出家する以前の名。
[鉦鉆石]
仏教の勤行に使用する鉦（かね）の形をした石。

4 篠木合宿絵馬

（しのぎがっしゅくえま）

【区　分】
市指定
【種　別】
絵画
【時　代】
江戸時代
【サイズ】
タテ 117cm×ヨコ 152cm
【所有者等】
円福寺
【所在地】
円福寺
（白山町 9−1）

平安時代後期以降、春日井市の北東部から小牧市にかけての地域は、篠木荘と呼ばれる荘園でした。荘内 33 か村の村々が、馬之塔（おまんと）を熱田神宮（江戸時代中期頃からは竜泉寺）に奉納していた行事が篠木合宿です。この絵馬は、馬之塔奉納の様子を描いたもので、村々の大行事である祭礼が無事終わったことのお礼として白山町にある円福寺に奉納されたものと思われます。銘文から文化元年（1804）5 月に奉納されたことが分かります。以前は観音堂に掲げられていましたが、現在は本堂に保管されています。

[馬之塔]
背に御幣（ごへい）を立てるなどした飾り馬。
[御幣]
白色または金銀や五色の紙で作った飾りを弊串（へいぐし）に挟んだもの。

5 絹本着色十二天画像（12幅）

（けんぽんちゃくしょくじゅうにてんがぞう（12ふく））

【区　分】
市指定

【種　別】
絵画

【時　代】
室町時代

【サイズ】
タテ 120cm×ヨコ 41cm など

【所有者等】
高蔵寺

【所在地】
高蔵寺
（高蔵寺町北 5 丁目 1039）

燈明山高蔵寺は平安時代中頃、承平 3 年（933）に創建された天台宗の寺院です。十二天とは帝釈天（たいしゃくてん）、火天、閻魔天（えんまてん）、羅刹天（らせつてん）、水天、風天、毘沙門天（びしゃもんてん）、伊舎那天（いしゃなてん）、梵天（ぼんてん）、地天、日天、月天の 12 神で、インドのバラモン教やヒンドゥ教の神が仏教に取り入れられたもので、平安時代に真言宗・天台宗とともに中国から伝えられました。この画像はあらい絹地に金泥（きんでい）、緑青（ろくしょう）、群青（ぐんじょう）、朱（しゅ）などの絵の具で描かれ、繧繝（うんげん）というぼかしの手法が用いられています。天正 2 年（1574）に寄進されたという銘文から、室町時代後期の作品と推定されます。ただし宋風の画風であることから、鎌倉時代に制作された教王護国寺の十二天屏風の影響を受けていると考えられます。

6 曽呂利惣八所持刀

（そろりそうはちしょじかたな）

【区　分】
市指定

【種　別】
工芸

【時　代】
室町時代

【サイズ】
不明

【所有者等】
高蔵寺

【所在地】
高蔵寺
（高蔵寺町北 5 丁目 1039）

この刀は室町時代後期に活躍した曽呂利惣八が所持していたと伝えられる刀です。曽呂利惣八は関田から出川にかけた地域を地盤とする野武士の親分で、盗賊の大親分として有名でした。しかし、狙うのは大金持ちだけで、貧しいものには金品を分け与えるなど、庶民には義賊として人気が高かったようです。この刀は高蔵寺町の高蔵寺に保管されていますが、その他出川町の民家の脇には惣八の墓が、白山町の円福寺には惣八が所持していた陣太鼓が残されています。また、惣八の葬礼を行った福厳寺（小牧市大草）盛禅和尚が葬式で着用した袈裟は、今でも福厳寺に残されています。

7 明治天皇坂下行在所旧跡

（めいじてんのうさかしたあんざいしょきゅうせき）

【区　分】
市指定
【種　別】
史跡
【時　代】
明治時代
【サイズ】
ー
【所有者等】
萬壽寺
【所在地】
萬壽寺
（坂下町 4 丁目 417）

明治天皇は明治 13 年(1880)に京都への巡幸を行い、その途中で春日井市にも立ち寄りました。6 月 30 日早朝に前夜の宿泊地岐阜県多治見市を出発した明治天皇は、内津峠を越えて春日井市(当時は東春日井郡)に入り、下街道を通って名古屋市に向かいました。この際、天皇の休憩所となった場所が史跡に指定されています。この坂下行在所旧跡は、明治天皇が昼食をとった坂下町の萬壽寺で、現在寺の入口には「明治天皇坂下行在所旧跡」の石柱が立てられています。当時の建物は大正時代の火災によって失われてしまい、現在の本堂は再建されたものです。

[下街道]
名古屋城下と中山道を結ぶ街道。江戸時代には善光寺街道とも呼ばれ、庶民の道として栄えた。

8 明治天皇内津御小休所旧跡

（めいじてんのううつつおんこやすみどころきゅうせき）

【区　分】
市指定

【種　別】
史跡

【時　代】
明治時代

【サイズ】
ー

【所有者等】
ー

【所在地】
県道内津勝川線道路脇
（内津町）

明治天皇は明治 13 年(1880)に京都への巡幸を行い、その途中で春日井市にも立ち寄りました。6 月 30 日早朝に前夜の宿泊地岐阜県多治見市を出発した明治天皇は、内津峠を越えて春日井市(当時は東春日井郡)に入り、下街道を通って名古屋市に向かいました。この際、天皇の休憩所となった場所が史跡に指定されています。この内津御小休所は天皇が小休止した内津村の長谷川定七氏宅の跡で、現在県道内津勝川線の道路脇に石碑が立っています。この巡幸に先立ち、宮内省の役人による検査があり入念に準備が行われました。また巡幸に際して、行列の模様を描いた多色刷りの版画が発売されるなど、大変なにぎわいとなり、人々が明治という新しい時代の到来を実感できた出来事であったと思われます。

[下街道]
名古屋城下と中山道を結ぶ街道。江戸時代には善光寺街道とも呼ばれ、庶民の道として栄えた。

9 明治天皇下原新田御小休所旧跡

（めいじてんのうしもはらしんでんおんこやすみどころきゅうせき）

【区　分】
市指定
【種　別】
史跡
【時　代】
明治時代
【サイズ】
ー
【所有者等】
春日井市
【所在地】
郷土館
（鳥居松町 7 丁目 5）

明治天皇は明治 13 年(1880)に京都への巡幸を行い、その途中で春日井市にも立ち寄りました。6 月 30 日早朝に前夜の宿泊地岐阜県多治見市を出発した明治天皇は、内津峠を越えて春日井市(当時は東春日井郡)に入り、下街道を通って名古屋市に向かいました。この際、天皇の休憩所となった場所が史跡に指定されています。この下原新田御小休所旧跡にある当時の趣を残す建物は、江戸時代の末期、安政3年(1856)に下原新田(現　鳥居松町)の酒造家飯田重蔵氏の離れ座敷として建てられたものです。その後商工会議所や銀行を経て、昭和48年(1973)6月、春日井市制施行 30 周年を記念して春日井市立郷土館として開館しました。館内には下街道に関する資料などが展示されています。開館日は毎月第 3 土曜日の午前 9 時～正午で、建物内部に立ち入ることはできませんが、庭先から室内を見学できます。

[下街道]
名古屋城下と中山道を結ぶ街道。江戸時代には善光寺街道とも呼ばれ、庶民の道として栄えた。

10 密蔵院文書

（みつぞういんもんじょ）

【区　分】
市指定
【種　別】
文書
【時　代】
鎌倉～江戸時代
【サイズ】
【所有者等】
密蔵院
【所在地】
密蔵院
（熊野町 3133）

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦 3 年（1328）慈妙上人（じみょうしょうにん）によって開山されました。密蔵院には、他の寺院から移されて来たものを含め数多くの文書（もんじょ）が保存されています。それらのうち1. 密蔵院に関する鎌倉時代から江戸時代初期にかけての勅状（ちょくじょう）。2. 如法院（にょほういん）に伝えられていたもの。3. 笠寺の笠覆寺（りゅうふくじ）に伝えられていたもののうち織田家に関する書状の3種類の文書が文化財に指定されています。

[文書]
差出人と宛名がある文書。
[勅状]
天皇からの文書。
[如法院]
密蔵院の末寺のひとつで、熱田神宮の神宮寺。

11 内々神社宝剣（3振）

（うつつじんじゃほうけん（3ふり））

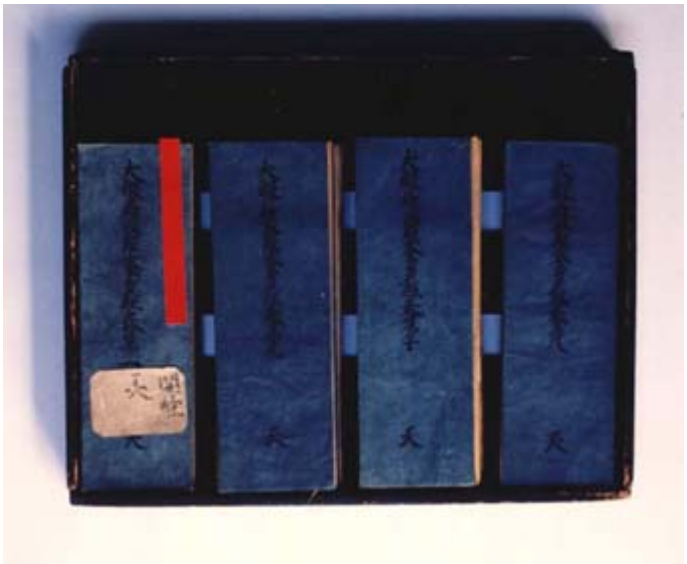
【区　分】
市指定
【種　別】
工芸
【時　代】
江戸時代
【サイズ】
忠吉２尺２寸５分
無銘２尺２寸２分
無銘２尺８分
【所有者等】
内々神社
【所在地】
内々神社
（内津町 24）

内津町にある内々神社は、平安時代前期に編さんされた「延喜式神名帳」（えんぎしきしんめいちょう）に記載されている神社で、主祭神は尾張氏の建稲種命（たけいなだねのみこと）で、これに日本武尊、宮簀姫命（みやずひめのみこと）を配しています。この３振の宝剣はいずれも寄進されたもので、そのうちの１振は「肥前国忠吉」の銘がある太刀で、江戸時代初期のものと推定されます。それ以外の２振はいずれも刀で銘文はありません。正宗作という伝承もありますが、制作者や年代等は明らかではなく、江戸時代後期以降に制作されたものではないかと推測されます。

[延喜式]
平安時代前期に編さんされた法典。
[忠吉]
江戸時代初期の高名な刀工。
[太刀]
儀式用、軍事用に用いられる刀剣。反りがあり湾曲している。
[刀]
片刃の刃物。切ることを目的としている。
[正宗]
鎌倉時代後期の刀工で、その作品は名刀として非常に尊重された。

12 紙本墨書大般若経(600 巻)

(しほんぼくしょだいはんにゃきょう(600かん))



【区　分】
市指定
【種　別】
文書
【時　代】
鎌倉～室町時代
【サイズ】
ー
【所有者等】
見性寺
【所在地】
見性寺
(内津町 165)

内津町にある見性寺は内々神社から下街道を少し下がったところにある天文年間(1532～1554)に創建されたといわれている曹洞宗福厳寺(愛知県小牧市)派の寺院です。この大般若経の伝来は不詳ですが、江戸初期には海部郡甚目寺町の甚目寺の所有であったと伝えられています。紙も褐色の斐紙(ひし)、黄麻紙(おうまし)、茶毘紙(だびし)など様々なものが用いられています。斐紙のものには「正元弐年…(中略)…執筆権祢宜度会神主辰章」と書かれているものがあり、伊勢神宮と何らかの関係があったことが推測されます。

[下街道]
名古屋城下と中山道を結ぶ街道。江戸時代には善光寺街道とも呼ばれ、庶民の道として栄えた。
[斐紙]
ジンチョウゲ科の落葉低木・雁皮を原料とする紙で、変質しないため「紙の王様」と呼ばれる。
[黄麻紙]
インド原産のシナノキ科の多年草・綱麻（つなそ）を原料とする紙で、丈夫なため写経や重要文書など長期保存用に用いられる。
[茶毘紙]
麻紙に白檀等香木の粉末を漉き込んだもの。

13 春日井木遣り

（かすがいけやり）

【区　分】
市指定
【種　別】
無形民俗
【時　代】
大正時代
【サイズ】
【所有者等】
春日井木遣り保存会
【所在地】

（柏原町）

木遣り（けやり）とは、伊勢神宮の木曳唄（こびきうた）から発生したと伝えられており、大きな木を大勢で運ぶときの音頭です。昔は寺や神社などの棟上げの際に行われるものでしたが、次第に一般家屋の建前の際にも行われるようになりました。柏原町の佐久間義良（さくまぎろう）がこの木遣りの普及と保存に尽力し、大正時代から昭和時代にかけて尾北一帯で非常に盛んになりました。現在でも柏原町の「春日井木遣り保存会」ではこの木遣りの保存活動を行っており、「かなつる山」、「土佐」、「お夏清十郎笠くどき」、「かけすか」等の木遣唄が伝えられています。

14 密蔵院建造物(6棟)

(みつぞういんけんぞうぶつ(6とう))

【区　分】
市指定
【種　別】
建造物
【時　代】
江戸時代
【サイズ】
ー
【所有者等】
密蔵院
【所在地】
密蔵院
(熊野町 3133)

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺末の中本山で、嘉暦 3 年(1328)慈妙上人(じみょうしょうにん)によって開山されました。最盛期には、塔頭(たっちゅう)が 36 坊あり、修業した僧は延べ 3000 人を超えるなど僧侶達が修業や位を受ける場として非常に栄え、尾張天台宗復興の中心となりました。また、尾張・三河・信濃などの近隣を始め遠くは播磨(現在の兵庫県)・出雲(現在の島根県)など全国に 700 以上の末寺があったといわれています。その後戦国時代末に衰退し、江戸時代前期に再興されました。しかし、現在では室町時代に建立された多宝塔のほか、江戸時代に建立された総門、山王社、開山堂、観音堂、元三大師(がんさんだいし)堂、宝蔵が残るのみです。

[塔頭]
本寺の境内にある小寺院。
[総門]
この門は、当初は棟門だったものを改造したものである。
[山王社]
山王社は別名日吉社（ひえしゃ）といい、本来は滋賀県大津市にある比叡山の地主神・日吉神社（ひえじんじゃ）を示すが、ここでは密蔵院の鎮守府として日吉神社を勧請（かんじょう）したもの。
[勧請]
神仏の分霊を請じまつること。
[元三大師]
天台宗中興の祖とされる良源の別名。

15 伝道風筆法華経断簡（26行切）

（でんとうふうひつほけきょうだんかん（26ぎょうぎれ））

【区　分】
市指定
【種　別】
文書
【時　代】
平安時代
【サイズ】
表紙タテ 24.3cm×ヨコ 48.4cm
【所有者等】
観音寺
【所在地】
観音寺
（松河戸町 5 丁目 9-6）

松河戸町にある観音寺は曹洞宗の寺院で、小野道風に関するさまざまな資料を所蔵しています。これは法華経信解品（しんげぼん）の断簡で、装飾のある料紙に書かれています。優美で格調高い和様の写経です。江戸時代中期の古筆鑑定家の古筆了仲（こひつりょうちゅう）が小野道風筆と鑑定した添え書きが付いていますが、実際には道風より少し後の平安時代後期に書写されたもので、筆者は不明です。

[断簡]
古筆を切断したもの。
[古筆]
鎌倉時代以前に書かれた優れた書作品。

16 伝道風筆新楽府断簡（4行切）

（でんとうふうひつしんがふだんかん（4ぎょうぎれ））

【区　分】
市指定
【種　別】
文書
【時　代】
不明
【サイズ】
料紙タテ 26.3cm×ヨコ 18.2cm
【所有者等】
観音寺
【所在地】
観音寺
（松河戸町 5 丁目 9-6）

松河戸町にある観音寺は曹洞宗の寺院で、小野道風に関するさまざまな資料を所蔵しています。新楽府は中国唐時代の詩人白楽天（はくらくてん）の詩で50篇からなる連作です。この断簡は小野神社へ寄進されたもので、「胡施女、近習を戒む也」という詩が書かれています。作者ははっきりとしませんが、道風の書の特色である豊潤で優雅また粘り強い筆で書かれています。

[断簡]
古筆を切断したもの。
[古筆]
鎌倉時代以前に書かれた優れた書作品。

17 十五の森

（じゅうごのもり）

【区　分】
市指定
【種　別】
史跡
【時　代】
室町時代
【サイズ】
ー
【所有者等】
松河戸区
【所在地】
愛知電機(株)駐車場内
（松河戸町 4123）

昔、春日井市松河戸町の一帯では毎年のように庄内川の堤防が切れ、被害を受けていました。明応 3 年(1494)6 月、水神様に 15 歳の娘を捧げると良いという陰陽師(おんみょうじ)の言葉に従って庄屋矢野氏の娘が白木の箱に入れられて、土手に埋められました。それ以降は水害もなくなり、平和な村になったと言われています。人々は、この跡を十五の森と呼び、娘の菩提を弔うために小祠を建てて薬師如来を安置しました。現在、「十五之森趾」と書かれた標柱が松河戸町の愛知電機(株)の駐車場脇にあります。また、松河戸町の観音寺境内には十五薬師と呼ばれている薬師堂と親子地蔵があります。

18 蓋付台付壺

（ふたつきだいつきつぼ）

【区　分】
市指定
【種　別】
考古資料
【時　代】
古墳時代
【サイズ】
高 30.5cm
【所有者等】
春日井市
【所在地】
中央公民館
（柏原町 1 丁目 97-1）

古墳時代後期の須恵器の壺です。一般の実用的な壺と異なり、脚と蓋をもつ独特の形をしているので、古墳に副葬するために作られたものと考えられます。この壺は、西尾町字欠ノ下（かけのした）にあった欠ノ下古墳から出土したものです。欠ノ下古墳は昭和 6 年（1931）新田開発に伴い壊されてしまい、現在確認することはできません。開発以前には人が出入り可能な大規模な横穴式石室（8畳敷の広さ）があったと伝えられています。

[須恵器]
窯で焼成された硬質のやきもの。
[副葬]
遺体にそえて埋葬すること。
[横穴式石室]
棺を納めるための石組みの部屋で、横方向に開口し追葬が出来るような構造となっている。

19 広口壺

（ひろくちつぼ）

【区　分】
市指定
【種　別】
考古資料
【時　代】
古墳時代
【サイズ】
高 22.5cm
【所有者等】
龍降寺
【所在地】
龍降寺
（気噴町北 2 丁目 46）

古墳時代後期の須恵器の広口壺です。この壺は、旧気噴村字南屋敷にあった気噴第 1 号墳から出土したものです。気噴第 1 号墳は、明治 29 年（1896）国鉄（現在のJR）中央線工事のために壊されてしまい現在は確認することはできません。そのため古墳の形や大きさ、埋葬施設などは不明ですが、『高蔵寺町誌』には工事の際にこの広口壺を始め提瓶などの須恵器や鏡・刀・環鈴が出土したとの記録が残されています。この広口壺は、口縁部が部分的に欠けている以外はほぼ完全な形を保っており、横穴式石室に副葬されたものの一部であった可能性があります。

[須恵器]
窯で焼成された硬質のやきもの。

20 環鈴

（かんれい）

【区　分】
市指定
【種　別】
考古資料
【時　代】
古墳時代
【サイズ】
最大幅約11cm
【所有者等】
龍降寺
【所在地】
龍降寺
（気噴町北 2 丁目 46）

古墳時代後期の青銅製の環鈴で、獣面を施した3つの鈴を連結したもので、三環鈴ともよびます。朝鮮半島産と推定される全国的にも希少なものです。環鈴は、馬を装飾する為の馬鈴（ばれい）とも考えられていますが、これは、馬ではなく人が腰あたりに付ける装身具として使われていたのではないかと推定されています。この環鈴は、旧気噴村字南屋敷にあった気噴第1号墳から出土しました。気噴第1号墳は、明治 29 年（1896）国鉄（現在のJR）中央線工事のために壊されてしまい現在は確認することはできません。そのため古墳の形や大きさ、埋葬施設などは不明ですが、『高蔵寺町誌』には工事の際に環鈴の他に鏡・刀、広口壺を始めとする須恵器等が出土したとの記録が残されています。

[須恵器]
窯で焼成された硬質のやきもの。

21 木造大日如来坐像

（もくぞうだいにちにょらいざぞう）

【区　分】
市指定
【種　別】
彫刻
【時　代】
室町時代
【サイズ】
像高 66cm、膝張 44cm
【所有者等】
密蔵院
【所在地】
密蔵院
（熊野町 3133）

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦 3 年（1328）慈妙上人（じみょうしょうにん）によって開山されました。この像はケヤキと思われる硬い材を用いた一木造（いちぼくづくり）のもので、光背や蓮台も同じ種類の材で作られており、真鍮製の宝冠と胸飾りが付けられています。大日如来は密教では金剛界・胎蔵界（たいぞうかい）の中心となる最も尊い仏とされていますが、この像は両方の手で三角形を作るような法界定印（ほっかいじょういん）を結んでいることから胎蔵界の大日如来であることが分かります。その様式から室町時代のものとも推定されますが、制作年代は明らかではありません。本来は灌頂堂の本尊ですが、現在は収蔵庫に納められています。

[一木造]
１本の木を彫り出して作る工法。
[密教]
平安時代初期に空海や最澄らが中国から伝えた仏教で、真言宗（真言密教＝東密）と天台宗（天台密教＝台密）がある。
[金剛界]
大日如来の智徳をあらわす世界。
[胎蔵界]
大日如来の慈悲をあらわす世界。
[法界定印]
悟りの最高の境地を示すもの。

22 絹本着色十六羅漢図（16幅）

（けんぽんちゃくしょくじゅうろくらかんず（16ふく））

【区　分】
市指定
【種　別】
絵画
【時　代】
江戸時代
【サイズ】
全幅タテ 106cm×ヨコ 52.8cm
【所有者等】
密蔵院
【所在地】
密蔵院
（熊野町 3133）

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦 3 年（1328）慈妙上人（じみょうしょうにん）によって開山されました。羅漢とは仏法の修行者のことで、広く人々の尊敬を集めており、日本や中国では五百羅漢や十六羅漢の彫刻や絵画が盛んに制作されました。この画像にある 16 人の羅漢は異国風の顔立ちをしている者が多く、いずれも僧侶の姿をしています。京都南禅寺に伝わる良詮（りょうせん）の作品の影響を受けていると考えられますが、江戸時代に狩野派の絵師によって描かれたと推定されます。

［良詮］
室町時代の建仁寺の僧侶。

23 鰐口

（わにぐち）

【区　分】
市指定
【種　別】
工芸
【時　代】
室町時代
【サイズ】
タテ径 27.7cm、ヨコ径 27.5cm、厚さ 11.3cm
【所有者等】
密蔵院
【所在地】
密蔵院
（熊野町 3133）

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺末の中本山で、嘉暦 3 年（1328）慈妙上人（じみょうしょうにん）によって開山されました。鰐口（わにぐち）とは、鈴を扁平な円形にしたもので、社殿や仏堂前の軒下につるし、参拝者が布で編んだ綱を振って鳴らすものです。この鰐口は、中央にある撞座（つきざ）が相当磨耗していることから、勤行（ごんぎょう）に使われたものではないかと考えられます。銘文から室町時代中期の嘉吉 3 年（1443）に奉納されたものと分かります。

[撞座]
鈴を鳴らす部分。
[勤行]
仏教の修業。

24 木造本地仏坐像(5躯)

(もくぞうほんじぶつざぞう(5く))

【区　分】
市指定
【種　別】
彫刻
【時　代】
室町時代
【サイズ】
像高岩座共 16cm 他
【所有者等】
密蔵院
【所在地】
密蔵院
(熊野町 3133)

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺末の中本山で、嘉暦 3 年(1328)慈妙上人(じみょうしょうにん)によって開山されました。これらは、密蔵院の鎮守社である日吉社(ひえしゃ)に伝えられた本地仏(ほんじぶつ)です。神社に仏が祀られているのは、不思議な感覚がしますが、本地垂迹説(ほんじすいじゃくせつ)に基づいたものです。5 体は阿弥陀如来・薬師如来・十一面観音・地蔵菩薩・普賢菩薩で、いずれも如来形の特徴である一枚の布をかけただけのような簡素な衣をまとっており、普賢菩薩のみ宝冠を戴いています。箱内に納められた木札から永正 2 年(1505)の制作と考えられます。

[鎮守]
氏神や地主神など村に鎮座する神。
[日吉社]
本来は滋賀県大津市にある比叡山の地主神・日吉神社（ひえじんじゃ）を示すが、ここでは密蔵院の鎮守府として日吉神社を勧請（かんじょう）したもの。別名山王社。
[本地垂迹説]
仏や菩薩は人々を救済するため仮に神に姿を変えてこの世に現れるとした教説。

25 庚申像附厨子

（こうしんぞうつけたりずし）

【区　分】
市指定
【種　別】
工芸
【時　代】
室町時代
【サイズ】
像高 25.8cm、厨子高 65cm、 奥行 38cm、幅 47cm
【所有者等】
新徳寺
【所在地】
新徳寺
（上田楽町 1897）

上田楽（かみたらが）町にある少林山新徳寺は臨済宗の中本山で、千手観音を本尊としており、元亀３年（1572）に創建されました。庚申とは、暦で庚申（かのえさる）の日の夜に体内にいる虫が抜け出して、天の帝にその人の過失を告げて早死にさせるという中国の道教の信仰です。日本には平安時代に伝わり、庚申の日には徹夜するという風習が貴族の間に広まりました。室町時代以降は独自の民俗的習俗となり、仏教では帝釈天と青面金剛を、神道では猿田彦を祀って徹夜をする庚申待が広まりました。一般的に庚申像は青面金剛の像ですが、これは頭上にサルを戴く神仏混合の神像です。また、この像を祀る厨子は永禄 12 年（1569）という銘文をもつ寄棟造の素朴なもので、元は明王堂にあったといわれています。

[厨子]
仏像や経典などを納めるための容器。

26 経机

（きょうづくえ）

【区　分】
市指定
【種　別】
工芸
【時　代】
江戸時代
【サイズ】
高 28.5cm、奥行 31.5cm、 幅 54.5cm
【所有者等】
新徳寺
【所在地】
新徳寺
（上田楽町 1897）

上田楽（かみたらが）町にある少林山新徳寺は臨済宗の中本山で、千手観音を本尊としており、元亀 3 年（1572）に創建されました。経机とは仏前で読経の際、経典を載せて置く机のことで、4つの脚をもち、黒又は赤の漆塗りで縁を金具で飾るものが一般的です。この経机は黒漆で仕上げられていますが、はめ板にある格座間（こうざま）の形から江戸時代に制作されたものではないかと推定されます。

27 寒山拾得（2幅）

（かんざんじっとく（2ふく））

【区　分】
市指定
【種　別】
絵画
【時　代】
室町～江戸時代
【サイズ】
各タテ 55.5cm×ヨコ 34cm
【所有者等】
新徳寺
【所在地】
新徳寺
（上田楽町 1897）

上田楽（かみたらが）町にある少林山新徳寺は臨済宗の中本山で、千手観音を本尊としており、元亀３年（1572）に創建されました。寒山と拾得は中国唐時代の人で、天台山国清寺で豊干（ぶかん）禅師に仕え世俗から離れた生活を送っており、「寒山は文殊、拾得は普賢の再来」と豊干禅師が語ったと伝えられています。この作品は、京都相国寺にある可翁（かおう）の作品である寒山拾得図を模したと考えられます。比較するとやや柔らかさに欠け、室町時代末から江戸時代にかけての作品と推測されます。

［可翁］
室町時代初期に活躍した画家。

28 達磨画像

（だるまがぞう）

【区　分】
市指定

【種　別】
絵画

【時　代】
江戸時代

【サイズ】
タテ 90.5cm×ヨコ 27.4cm

【所有者等】
新徳寺

【所在地】
新徳寺
（上田楽町 1897）

上田楽（かみたらが）町にある少林山新徳寺は臨済宗の中本山で、千手観音を本尊としており、元亀 3 年（1572）に創建されました。達磨大師（ボディダルマ）は、南インドの出身の僧侶で 6 世紀初頭に中国に渡って禅の教えを伝えた人物で、日本でも禅宗の始祖として深い信仰を集めています。この画像の作者白隠慧鶴（はくいんえかく）は江戸時代中期の僧で、臨済宗中興の祖と言われています。彼の作品の特色は、技巧を超えた精神性の追求にあり、日本各地に禅画や書が多く残されています。この画像の賛（さん）は、「直指人心、見性成仏」と淡々と書かれていますが、一方達磨像にはユーモアが感じられ、興味深い作品となっています。

[賛]
絵に付けられる詩や歌で、その絵にちなんだ内容となっている。

29 慈妙上人画像

（じみょうしょうにんがぞう）

【区　分】
市指定

【種　別】
絵画

【時　代】
江戸時代

【サイズ】
タテ 108.4cm×ヨコ 42.7cm

【所有者等】
密蔵院

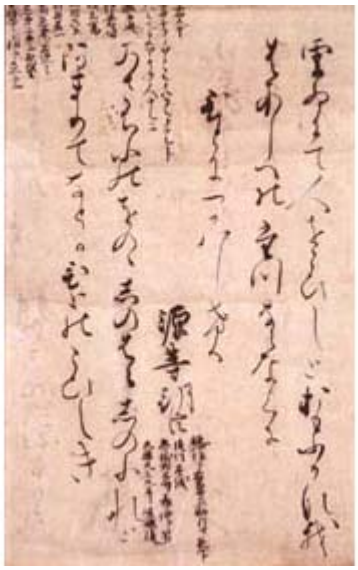
【所在地】
密蔵院
（熊野町 3133）

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、密蔵院という院号は、鎌倉時代末期に院政を行った後伏見上皇から賜ったものです。慈妙上人（じみょうしょうにん）は常陸（現在の茨城県）出身で、比叡山で 10 年もの修業を重ねました。その後、伊勢神宮の神託によって美濃を巡り、嘉暦 3 年（1328）には密蔵院を開山しました。この画像には、野外で緑色の敷物に座し、右手に三鈷杵（さんこしょ）、左手に数珠を持った慈妙上人の姿が絹地に彩色像として描かれています。箱書きから、江戸時代初期の寛文 2 年（1662）に制作されたものと分かります。

[三鈷杵]
迷いを打ち破るという意味を持っている法具「金剛杵」のうち先端が三つに分かれているもの。

30 寂蓮法師和歌

（じゃくれんほうしわか）



【区　分】
市指定
【種　別】
文書
【時　代】
不明
【サイズ】
タテ 22.4cm×ヨコ 14.0cm
【所有者等】
密蔵院
【所在地】
密蔵院
（熊野町 3133）

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山です。寂蓮法師は平安時代末から鎌倉時代初期に活躍した歌人で、新古今和歌集の選者のひとりでもあり、繊細で技巧的な歌風が特徴です。これは後撰和歌集第 9 巻の断簡で、2 首の和歌が書かれています。一方は読み人知らずの「雲井にて人を恋しと思ふかな我は葦べのたづならなくに」という歌で、もう一方は源等（みなもとのひとし）の「浅茅生の小野の篠原忍れど余りてなどか人の恋しき」という百人一首にも詠まれている歌です。軸裏や箱には「寂蓮法師墨蹟　天長山神宮寺常住」と書かれていますが、筆者は不明です。

[断簡]
古筆を切断したもの。
[古筆]
鎌倉時代以前に書かれた優れた書作品。

31 慈鎮和尚和歌

（じちんおしょうわか）

【区　分】
市指定
【種　別】
文書
【時　代】
不明
【サイズ】
タテ 16.5cm×ヨコ 16.3cm
【所有者等】
密蔵院
【所在地】
密蔵院
（熊野町 3133）

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山です。慈鎮和尚とは、平安時代末から鎌倉時代前期に活躍し、歴史書「愚管抄」（ぐかんしょう）を記した天台宗の高僧慈円のことです。歌人としても有名で、のびやかで、技巧に優れている歌風が特徴です。これは新勅撰和歌集第15巻の断簡で、冒頭部分の2首の和歌が書かれています。一方は業平朝臣の「忍山忍びて通ふ道もがな人の心の奥も見るべく」という歌で、もう一方は謙徳公の「恋しきを人には言わで忍草忍ぶにあまる色を見よかし」という歌です。軸裏や箱には「慈鎮和尚墨蹟　天長山神宮寺常住」と書かれていますが、筆者は不明です。

[断簡]
古筆を切断したもの。
[古筆]
鎌倉時代以前に書かれた優れた書作品。
[業平朝臣]
平安時代初期の歌人在原業平（ありわらのなりひら）。「伊勢物語」は業平の歌を中核とした歌物語の傑作。
[謙徳公]
平安時代中期の歌人で政治家の藤原伊尹（ふじわらのこれまさ）。

32 元三大師堂厨子

（がんさんだいしどうずし）

【区　分】
市指定

【種　別】
建造物

【時　代】
不明

【サイズ】
高さ 175.5cm、ヨコ（桁）85.5cm、奥行（梁）67.5cm

【所有者等】
大光寺

【所在地】
大光寺
（上条町 8 丁目 3618）

上条（じょうじょう）町にある大光寺は天台宗の寺院です。厨子とは仏像や経典などを納めるための容器のことで、法隆寺に伝わる玉虫厨子が有名です。この厨子は宮殿（くうでん）型厨子と呼ばれる形態のもので、内部には石仏が祀られており、大光寺の元三大師堂（がんさんだいしどう）に納められています。元三大師は別名慈恵（じえ）大師とも呼ばれる平安時代の天台宗の高僧で、比叡山中興の祖と言われる良源のことです。この厨子の制作年代は不明ですが、永正 7 年（1510）に鳳来寺（愛知県新城市）にあったことが、銘文から分かります。その後何らかの理由で大光寺に移されて来たと考えられます。

33 下街道の古井戸

（したかいどうのふるいど）

【区　分】
市指定
【種　別】
有形民俗
【時　代】
江戸時代
【サイズ】
タテ 0.9m×ヨコ 0.9m×高さ 0.6m
【所有者等】
退休寺
【所在地】
退休寺北
（大泉寺町 971）

大泉寺町にある賜恩山退休寺は浄土宗の寺院で、創建したのは尾張藩士の小野沢五郎兵衛です。初代藩主徳川義直（よしなお・別名源敬公）に仕えましたが、正保2年（1645）に職を退くと、この地に移り住み、又五郎吉清と名のりました。この古井戸は又五郎が掘らせたもので、どんな日照りにも水枯れすることなく、水不足に悩む村人や下街道を往来する旅人を助けたと伝えられる井戸です。井戸枠には「施主生国□□　小野沢又五郎吉清　南無阿弥陀佛　慶安五壬辰年(1652)二月四日」と刻まれています。井戸は年中干上がることなく、村人や旅人の救いとなり、いつしか「諸人助けの井戸」と呼ばれるようになりました。

34 尻冷し地蔵

（しりひやしじぞう）

【区　分】
市指定
【種　別】
有形民俗
【時　代】
江戸時代
【サイズ】
高 1.6m、幅 0.7m
【所有者等】
退休寺
【所在地】
中部大学北西
（大泉寺町 443-115）

この石仏には「為松柏永寿禅定門女」、「正保四丁亥」の銘文があり、正保 4 年（1647）に建立された供養塔で、市内で最も古いと思われる石の地蔵です。かつては台座の下から清水が湧き、地蔵の足元を濡らしていたことからこの名があります。この地蔵は、敵に追われた手負いの武士が清水で傷口を洗い、喉をうるおしていたところ、追手に発見され討たれてしまい、その霊を慰めるため、清水の上に建てられたと伝えられています。

35 行者寺行者堂

（ぎょうじゃじぎょうじゃどう）

【区　分】
市指定
【種　別】
建造物
【時　代】
江戸時代
【サイズ】
ー
【所有者等】
行者寺
【所在地】
行者寺
（宮町字宮町 135）

宮町にある大峯山行者寺行者堂は、江戸時代中期頃、大和大峯山参りの信者が多く、安永5年(1776)に宮町の名倉藤蔵らが役(えん)の行者の尊像を作り、小堂を建てたのが始まりとされます。現在の堂は、寛政 12 年(1800)に再建されたもので、その後幾度かの改修を重ね現在に至っています。構造は方三間、入母屋造、一間の向拝付、桟瓦(さんがわら)葺きで、江戸後期のこの地方における寺院建築の一範例となる建築物です。

[役の行者]
奈良時代の修験者。
[向拝]
社殿や仏堂の正面階段の上に張り出したひさしの部分。
[桟瓦葺き]
丸瓦と平瓦を 1 枚にまとめた波形の瓦で屋根を葺くもので、江戸時代中期に開発され、一般住宅に瓦葺が普及する契機になった。

36 円福寺観音堂附棟札6枚

（えんぷくじかんのんどうつけたりむなふだ6まい）

【区　分】
市指定

【種　別】
建造物

【時　代】
江戸時代

【サイズ】
ー

【所有者等】
円福寺

【所在地】
円福寺
（白山町 9-1）

白山町の円福寺は、奈良時代、養老 7 年（723）創建という伝承をもつ天台宗の寺院です。現存する観音堂は、天正年間(1573-1593)の兵火で焼失後、棟札によって明暦 3 年（1657）再建であることがわかっています。構造は単層一間向拝付、桁行三間、梁間四間、寄棟造で、昭和 54 年（1979）に保存修理が行われ、桟瓦葺に改造されていた屋根が柿（こけら）型銅板葺に葺き替えられるなど、元の姿に近い形で復原されました。
円福寺には、観音堂の再建・修復に関する明暦 3 年(1657)から文政 5 年(1822)までの棟札が 6 枚残されており、令和 5 年に追加指定されました。棟札によって再建・修復の年次やその内容、願主・寄進者など普請に関わった人物などを具体的に知ることができます。

[向拝]
社殿や仏堂の正面階段の上に張り出したひさしの部分。
[桟瓦葺き]
丸瓦と平瓦を 1 枚にまとめた波形の瓦で屋根を葺くもので、江戸時代中期に開発され、一般住宅に瓦葺が普及する契機になった。
[柿（こけら）葺]
屋根の板葺きの一種で、厚さ 3～6㎜ 程度の板を 3㎝ 前後の間隔で上下にずらして重ね葺き上げるもの。

37 円福寺仁王(2 躯)

(えんぷくじにおう(2 く))

【区　分】
市指定
【種　別】
彫刻
【時　代】
室町時代
【サイズ】
阿形像高 268cm、
吽形像高 265cm
【所有者等】
円福寺
【所在地】
円福寺
(白山町 9-1)

白山町の円福寺は奈良時代、養老 7 年(723)創建という伝承をもつ天台宗の寺院です。円福寺の守護神として仁王門に安置される仁王像は、鎌倉時代的な写実性を留める作品です。構造は檜材の寄木造で体の主要部分は前・中・後の 3 材でつなぎ、前後 2 材でつなぐ頭部をさし首として入れています。漆下地に彩色を施したものでしたが、剥落のため古色で補修されています。像には内刳(うちぐり)を施し、眼には水晶(現在はガラス製)がはめ込まれています。頭部内刳面に永正 7 年(1510)の造立銘があり、室町時代の基準作として貴重な像です。

[寄木造]
いくつかの部品に分けて作り、内部をくりぬいてから接ぎ合わせる工法。

38 密蔵院宮殿型厨子

（みつぞういんくうでんがたずし）

【区　分】
市指定
【種　別】
建造物
【時　代】
室町時代
【サイズ】
総高 170cm、桁行 79cm、 梁間 55cm
【所有者等】
密蔵院
【所在地】
密蔵院
（熊野町 3133）

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦 3 年（1328）慈妙上人（じみょうしょうにん）によって開山されました。厨子とは仏像や仏画、経典などを納めるためのもので、この宮殿（くうでん）型厨子は観音堂にあったものですが、現在は本堂に安置されています。内部背面に書かれた墨書から、室町時代中期、文明 18 年（1486）に製作されたものであることが分かり、桁（けた）や梁（はり）の先端に付けられる装飾の木鼻（きばな）が拳形になっているなど、当時の建造物の特徴がよく表れています。

[桁]
上部の重みを支えたり、柱を固定するために柱上に棟と並行方向に架ける材木。
[梁]
上部の重みを支えたり、柱を固定するために柱上に棟と直角方向に架ける材木。
[棟]
ふたつの屋根面が交わる屋根で最も高い位置にある水平部分。

39 絹本着色愛染明王像

（けんぽんちゃくしょくあいぜんみょうおうぞう）

【区　分】
市指定
【種　別】
絵画
【時　代】
室町時代
【サイズ】
タテ 104.5cm×ヨコ 53.0cm
【所有者等】
密蔵院
【所在地】
密蔵院
（熊野町 3133）

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦 3 年（1328）慈妙上人（じみょうしょうにん）によって開山されました。愛染明王は、三つの眼と六本の腕を持ち、常に怒りの表情をしていますが、内面には敬愛の心をもって人々を救うといわれ、江戸時代以降は恋愛の守護神として広く信仰を集めました。この画像の愛染明王は、蓮華座に座しており、右手に五鈷杵（ごこしょ）、矢、蓮華を、左手には五鈷鈴（ごこれい）、弓、索（さく）を持ち、腕・臂・足には釧（せん）を付けています。

[五鈷杵]
迷いを打ち破るという意味を持っている法具「金剛杵」のうち先端が五つに分かれているもの。
[五鈷鈴]
五鈷杵の片方に鈴をつけた法具。
[索]
綱や網。
[釧]
貝や金属製の装飾用の輪。

40 絹本着色愛染明王像

（けんぽんちゃくしょくあいぜんみょうおうぞう）

【区　分】
市指定

【種　別】
絵画

【時　代】
室町時代

【サイズ】
タテ 87.6cm×ヨコ 51.0cm

【所有者等】
密蔵院

【所在地】
密蔵院
（熊野町 3133）

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦 3 年（1328）慈妙上人（じみょうしょうにん）によって開山されました。愛染明王は、三つの眼と六本の腕を持ち常に怒りの表情をしていますが、内面には敬愛の心をもって人々を救うといわれ、江戸時代以降は恋愛の守護神として広く信仰を集めました。この画像の愛染明王は、蓮華座に座しており、右手に五鈷杵（ごこしょ）、矢、蓮華を、左手には五鈷鈴（ごこれい）、弓、索（さく）を持っています。また、頭上には獅子冠を戴き、腕・臂・足には釧（せん）を付けています。

[五鈷杵]
迷いを打ち破るという意味を持っている法具「金剛杵」のうち先端が五つに分かれているもの。

[五鈷鈴]
五鈷杵の片方に鈴をつけた法具。

[索]
綱や網。

[釧]
貝や金属製の装飾用の輪。

41 絹本着色十一面観音菩薩坐像

（けんぽんちゃくしょくじゅういちめんかんのんぼさつざぞう）

【区　分】
市指定
【種　別】
絵画
【時　代】
室町時代
【サイズ】
タテ 104.5cm×ヨコ 53.0cm
【所有者等】
密蔵院
【所在地】
密蔵院
（熊野町 3133）

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦 3 年（1328）慈妙上人（じみょうしょうにん）によって開山されました。十一面観音とは常に全ての方向をみて、あらゆる人々を救うといわれている仏です。本図の十一面観音は、岩の上の蓮華座に半跏（はんか）に座り、右手には数珠を、左手には蓮華を入れた宝瓶（ほうへい）を持った姿で描かれています。そして、本面の頭上には化仏が 6・4・1 と 3 段に配置されています。この画像は、室町時代に描かれたと推定され、江戸時代後期に修復がされています。

[半跏]
右足を左足の膝にのせた姿。
[本面]
中心となる顔。
[化仏]
変化仏とも呼ばれるもので、小型の仏像のこと。

42 紺紙金泥金胎種子曼荼羅

（こんしきんでいきんたいしゅしまんだら）

【区　分】
市指定

【種　別】
絵画

【時　代】
室町時代

【サイズ】
タテ 105cm×ヨコ 41cm

【所有者等】
密蔵院

【所在地】
密蔵院
（熊野町 3133）

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦 3 年（1328）慈妙上人（じみょうしょうにん）によって開山されました。種子曼荼羅（しゅしまんだら）とは、仏像を絵ではなく梵字（ぼんじ）で表現した画像です。この金泥金胎種子曼荼羅は、紺紙に金泥を用いて、上方に金剛界（こんごうかい）、下方に胎蔵界（たいぞうかい）が配されています。室町時代の作品と推定されますが、この地方では大変珍しいものです。

[金剛界]
大日如来の智恵をあらわす世界。
[胎蔵界]
大日如来の慈悲をあらわす世界。

43 絹本着色三千仏像(3幅)

(けんぽんちゃくしょくさんぜんぶつぞう(3ふく))

【区　分】
市指定

【種　別】
絵画

【時　代】
室町時代

【サイズ】
各タテ 136cm×ヨコ 77.5cm

【所有者等】
密蔵院

【所在地】
密蔵院
(熊野町 3133)

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦 3 年(1328)慈妙上人(じみょうしょうにん)によって開山されました。三千仏像は過去・現在・未来の 3 幅の画像で構成されており、1. 過去「荘厳劫(しょうごんごう)」薬師如来を中心とし、千仏を配置したもの 2. 現在「賢劫」(げんごう)＝釈迦如来を中心とし、千仏を配置したもの 3. 未来「星宿劫」(せいしゅくごう)＝阿弥陀如来を中心とし、千仏を配置したものがそれぞれ描かれています。千仏といわれますが、実際には 3 幅とも 1018 体の小さな仏が描かれています。作風から室町時代の作品と推測されますが、江戸時代に修復が行われています。

44 寺額蜜蔵院

（じがくみつぞういん）

【区　分】
市指定

【種　別】
工芸

【時　代】
室町時代

【サイズ】
タテ 52.0cm×ヨコ 33.4cm
厚さ 4.0cm

【所有者等】
密蔵院

【所在地】
密蔵院
（熊野町 3133）

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦 3 年（1328）慈妙上人（じみょうしょうにん）によって開山されました。この寺額は、後伏見上皇の病気平癒祈願の功績によって、慈妙上人が院宣（いんぜん）と共に賜ったものです。これによって、医王山薬師寺は密蔵院という院号を得たのです。この額には、密蔵院ではなく「蜜」蔵院と非常に品格のある筆で書かれています。ほとんど損傷もないことから、寺宝として非常に大切に保存されてきたことが分かります。

[病気平癒祈願]
病気が回復するようにという祈祷。
[院宣]
上皇の命令によって出される文書。

45 神額東照大権現

（しんがくとうしょうだいごんげん）

【区　分】
市指定
【種　別】
工芸
【時　代】
江戸時代
【サイズ】
タテ 81.0cm×ヨコ 52.5cm
厚さ 3.0cm
【所有者等】
密蔵院
【所在地】
密蔵院
（熊野町 3133）

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦 3 年（1328）慈妙上人（じみょうしょうにん）によって開山されました。この神額は、京都左京区にある天台宗の門跡寺院（もんぜきじいん）である曼珠院（まんじゅいん）の門跡良恕親王（りょうにょしんのう）の筆に基づいて制作されたもので、江戸時代初期の神額として貴重なものです。もともと、名古屋城内にあった東照宮（とうしょうぐう）の鳥居にかけられていたものですが、嘉永 5 年（1852）に落下したために新しいものにかけ替えられ、この本来の額は密蔵院に保存されています。

[門跡寺院]
皇子や貴族などが住職を勤める特定の寺院。
[門跡]
門跡寺院の住職。
[東照宮]
徳川家康を祀る神社。

46 木造阿弥陀如来坐像

（もくぞうあみだにょらいざぞう）

【区　分】
市指定
【種　別】
彫刻
【時　代】
室町時代
【サイズ】
像高 58.5cm
【所有者等】
密蔵院
【所在地】
密蔵院
（熊野町 3133）

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦 3 年（1328）慈妙上人（じみょうしょうにん）によって開山されました。この像は、寛政 8 年（1796）に比叡山から密蔵院の塔頭（たっちゅう）であった吉祥院へ移されたものです。檜材の寄木造（よせぎづくり）の手法でつくられており、眼には玉眼（ぎょくがん）がはめられています。眼・鼻・口ともやや小さく、体もきゃしゃな姿をしています。運慶の作品という伝承がありますが、可能性は低く、室町時代につくられたものと推定されます。

[塔頭]
本寺の境内にある小寺院。
[寄木造]
いくつかの部品に分けて作り、内部をくりぬいてから接ぎ合わせる工法。
[玉眼]
水晶などの玉を眼の部分にはめこみ質感を出したもの。

47 木造不動明王立像

（もくぞうふどうみょうおうりゅうぞう）

【区　分】
市指定
【種　別】
彫刻
【時　代】
室町時代
【サイズ】
高 112cm
【所有者等】
円福寺
【所在地】
円福寺
（白山町 9−1）

白山町の円福寺は奈良時代、養老７年（723）創建という伝承をもつ天台宗の寺院です。不動明王は五大明王のひとつで、大日如来の化身とされています。本像は檜で寄木造（よせぎづくり）の手法を用いて作られています。火焔光背（かえんこうはい）を負い、右手に剣を、左手に索（さく）を持っています。同寺に所蔵されている毘沙門天と作風が似ており、室町時代に一具で制作されたものと考えられます。

[五大明王]
不動明王、降三世（ごうざんぜ）明王、軍荼利（ぐんだり）明王、大威徳（だいいとく）明王、金剛夜叉（こんごうやしゃ）明王の５明王。
[寄木造]
いくつかの部品に分けて作り、内部をくりぬいてから接ぎ合わせる工法。
[索]
綱や網。

48 木造毘沙門天立像

（もくぞうびしゃもんてんりゅうぞう）

【区　分】
市指定
【種　別】
彫刻
【時　代】
室町時代
【サイズ】
高 120cm
【所有者等】
円福寺
【所在地】
円福寺
（白山町 9−1）

白山町の円福寺は奈良時代、養老７年（723）創建という伝承をもつ天台宗の寺院です。毘沙門天は四天王の一人である多聞天の別名で、単独で祀られる場合のみ毘沙門天と呼ばれています。本像は檜材の寄木造（よせぎづくり）の手法を用いて作られており、右手に戟（げき）を持ち、左手で塔を掲げ、甲冑を身に着けた姿をしています。同寺に所蔵されている不動明王と作風が似ており、室町時代に一具で制作されたものと考えられます。

[四天王]
持国天（じこくてん）、増長天（ぞうちょうてん）、広目天（こうもくてん）、多聞天（たもんてん）の４天。
[寄木造]
いくつかの部品に分けて作り、内部をくりぬいてから接ぎ合わせる工法。
[戟]
槍のような形状をした中国古代の武器。

49 柄香炉

（えこうろ）

【区　分】
市指定
【種　別】
工芸
【時　代】
室町時代
【サイズ】
全長 33cm、高 10.2cm
【所有者等】
円福寺
【所在地】
円福寺
（白山町 9−1）

白山町の円福寺は奈良時代、養老 7 年（723）創建という伝承をもつ天台宗の寺院です。柄香炉とは置き香炉に柄を付けたもので、礼拝の際に手で持つための仏具です。この柄香炉は全体が蓮形をしており、柄は茎を表現しています。木製で香を焚くために必要な火舎（かしゃ）がないことから、実用品ではなく儀礼的に使用されていたものと推定されます。裏に刻まれている銘文から、永正 13 年（1516）に寄進されたものであることが分かります。

[火舎]
火を入れる場所。

50 前机

（まえづくえ）

【区　分】
市指定
【種　別】
工芸
【時　代】
室町時代
【サイズ】
高 37cm、奥行 39cm、幅 142cm
【所有者等】
円福寺
【所在地】
円福寺
（白山町 9-1）

白山町の円福寺は奈良時代、養老 7 年（723）創建という伝承をもつ天台宗の寺院です。前机とは須弥壇（しゅみだん）の前に据えて供養の法具を置く台で、端食（はしばみ）が付いた天板の両端に、別材を用いた筆返しが付いています。4 本の脚は、上下 2 段の貫（ぬき）によって補強されています。全体としては、和様のつくりですが、脚と天板をつなぐ部材にはボタンの浮彫りに彩色がされるなど一部禅宗様の装飾が加えられています。裏に書かれている銘文から、永正 12 年（1515）に寄進されたものであることが分かります。

[須弥壇]
仏像を安置させるための壇。
[端食]
板の反りを防ぐために付けられた幅の狭い部材。
[筆返し]
机などの縁に取り付けて物が落ちないようにした部材。
[貫]
柱と柱を横に貫いて連ねる材。
[禅宗様]
鎌倉時代に禅宗とともに中国から伝来した建築様式。

51 絹本着色仁済宗恕画像

（けんぽんちゃくしょくじんさいそうにょがぞう）

【区　分】
市指定

【種　別】
絵画

【時　代】
室町時代

【サイズ】
タテ 106.5cm×ヨコ 50.5cm

【所有者等】
泰岳寺

【所在地】
泰岳寺
（上条町 10 丁目 198）

上条（じょうじょう）町にある泰岳寺は臨済宗妙心寺派の寺院で、文明 18 年（1486）仁済宗恕（じんさいそうにょ）によって開山されました。現在の岐阜県美濃加茂市出身の仁済宗恕は、本覚霊照禅師と呼ばれ、京都大徳寺の住職を務めた高僧です。この画像は、袈裟をかけ曲録（きょくろく）に座った仁済宗恕の頂相（ちんぞう）で、上部の賛（さん）は、亡くなる前年の永正 15 年（1518）に自ら書いたものです。この画像は、春日井市内で保存されている頂相の中では、最も古く由緒ある貴重なものです。

[曲録]
法会などの際に高僧が使用する椅子。
[頂相]
禅宗高僧の肖像画や肖像彫刻。
[賛]
絵に付けられる詩や歌で、その絵にちなんだ内容となっている。

52 四つ建て民家

（よつだてみんか）

【区　分】
市指定
【種　別】
有形民俗
【時　代】
江戸～明治時代
【サイズ】
ー
【所有者等】
春日井市
【所在地】
中央公民館
（柏原町 1 丁目 97-1）

農家の母屋で、最も古い形式としてこの地方に残っているのが「四つ建て」です。この民家は勝川町にあった旧小林家の住宅を移築復元したものですが、明治時代初めに小林氏が古い家を買い取って建てたものと伝えられており、もともとの家は江戸時代中頃に築かれたのではないかと推測されます。「四つ建て」とはこの地方の特有の呼び名ですが、鳥居建ての一形式にあたり、「四つ枠組み」とも言われます。家の中心にある居間の周りに 4 本の役柱を礎石の上に建てるという構造から四つ建てと呼ばれるようになりました。柱の上端は梁や桁でつないで寄棟造の屋根を支えており、桁行の梁架構が梁間の大梁より下で納まる点が特徴です。本来は草葺き屋根でしたが、防火上の問題からトタン葺きに替えられています。

[居間]
ダイドコと呼ばれていた。
[役柱]
他の柱より太い 1 辺 15～20㎝程の柱。

53 内々神社御舞台

（うつつじんじゃおまいだい）

【区　分】
市指定
【種　別】
有形民俗
【時　代】
江戸時代
【サイズ】
高 5.7m、前間 3.0m、横間 3.8m
【所有者等】
内々神社
【所在地】
内々神社
（内津町 25-3）

内津町にある内々神社は、平安時代前期に編さんされた「延喜式神名帳」（えんぎしきしんめいちょう）に記載されている神社で、主祭神は尾張氏の建稲種命（たけいなだねのみこと）で、これに日本武尊、宮簀姫命（みやずひめのみこと）を配しています。御舞台（おまいだい）は、神社の例祭に使われたもので、「壇尻（だんじり）」、「山車（だし）」とも呼ばれます。この御舞台の制作にあたっては、神社の参拝者や内津宿の宿泊者から長年にわたって寄付を請い、社殿を建立した長野県諏訪の名工立川一族によって天保8年（1837）に完成したという記録が残されています。舞を奉納するので「御舞台」と名付けられ、かつては、祭りの当日には、御舞台の上で太鼓、鼓、笛などのお囃子で稚児や獅子舞が行われていましたが、現在は舞の奉納や山車の巡業はせず、秋の例祭の際には山車倉から出し、神社境内に置いて参拝者に披露されます。

[延喜式]
平安時代前期に編さんされた法典。

54 紙本着色越伝道付画像

（しほんちゃくしょくえつでんどうふがぞう）

【区　分】
市指定
【種　別】
絵画
【時　代】
江戸時代
【サイズ】
タテ 117cm×ヨコ 47cm
【所有者等】
慈眼寺
【所在地】
慈眼寺
（鳥居松町 1 丁目 40）

越伝道付は黄檗宗（おうばくしゅう）の高僧で、尾張藩主の招きで小牧市に慈眼寺を開きました。その後、弟子の単伝が宝永 6 年（1709）に鳥居松町に同名の慈眼寺を開きました。この地方では黄檗宗の寺院は珍しく、春日井市内には慈眼寺が 1 寺あるのみです。この画像には右手に拄杖（ちゅうじょう）、左手に払子（ほっす）を持った越伝の姿が描かれ、越伝自身の賛（さん）があります。万福寺に所蔵されている隠元隆琦（いんげんりゅうき）像とよく似ていることから、両者とも黄檗宗の画僧として有名な喜多元規（きたげんき）の作品と考えられます。

[黄檗宗]
江戸時代前期、中国の僧隠元隆琦（いんげんりゅうき）によって伝えられた禅宗の一派。本山は京都府宇治市にある万福寺。
[拄杖]
僧侶の持つ杖。
[払子]
馬の尾や麻などを束ねて柄をつけたもの。
[賛]
絵に付けられる詩や歌で、その絵にちなんだ内容となっている。

55 木造越伝道付坐像

（もくぞうえつでんどうふざぞう）

【区　分】
市指定
【種　別】
彫刻
【時　代】
江戸時代
【サイズ】
像高 134cm、膝張 84cm
【所有者等】
慈眼寺
【所在地】
慈眼寺
（鳥居松町 1 丁目 40）

越伝道付は黄檗宗（おうばくしゅう）の高僧で、尾張藩主の招きで小牧市に慈眼寺を開きました。その後、弟子の単伝が宝永 6 年（1709）に鳥居松町に同名の慈眼寺を開きました。この地方では黄檗宗の寺院は珍しく、春日井市内には慈眼寺が 1 寺あるのみです。この坐像は、寄木造の等身大の頂相（ちんぞう）で、眼には玉眼（ぎょくがん）がはめられています。同じく慈眼寺に伝えられている越伝の画像を手本に制作されたものと考えられています。

[黄檗宗]
江戸時代前期、中国の僧隠元隆琦（いんげんりゅうき）によって伝えられた禅宗の一派。本山は京都府宇治市にある万福寺。
[寄木造]
いくつかの部品に分けて作り、内部をくりぬいてから接ぎ合わせる工法。
[頂相]
禅宗高僧の肖像画や肖像彫刻。
[玉眼]
水晶などの玉を眼の部分にはめこみ質感を出したもの。

56 伝道風筆紺紙金字法華経断簡（信解品2行切）

（でんとうふうひつこんしきんじほけきょうだんかん（しんげぼん 2 ぎょうぎれ））

【区　分】
市指定
【種　別】
書跡
【時　代】
平安時代
【サイズ】
本紙タテ 23.0cm×ヨコ 3.6cm
【所有者等】
春日井市
【所在地】
道風記念館
（松河戸町 5 丁目 9-3）

これは、法華経のうち信解品の断簡で、紺色に染め、たたいて光沢を出した紙に書かれています。紺紙に金字で写経をすることは平安時代以後に流行し、現在でも多くの資料が見られます。道風記念館では指定文化財として如来寿量品（にょらいじゅりょうぼん）とこの信解品の 2 点の法華経の断簡を所蔵していますが、この2断簡は同筆です。優美な和様の写経であることから 10 世紀後半ころの書と推定されます。

[断簡]
古筆を切断したもの。
[古筆]
鎌倉時代以前に書かれた優れた書作品。
[和様]
日本的な書風。

57 伝道風筆紺紙金字法華経断簡（如来寿量品8行切）

（でんとうふうひつこんしきんじほけきょうだんかん（にょらいじゅりょうぼん8ぎょうぎれ））

【区　分】
市指定
【種　別】
書跡
【時　代】
平安時代
【サイズ】
本紙タテ 23.6cm×ヨコ 14.5cm
【所有者等】
春日井市
【所在地】
道風記念館
（松河戸町 5 丁目 9-3）

これは、法華経のうち如来寿量品の断簡で、紺色に染め、たたいて光沢を出した紙に書かれています。紺紙に金字で写経をすることは平安時代以後に流行し、現在でも多くの資料が見られます。道風記念館では指定文化財として信解品（しんげぼん）とこの如来寿量品の 2 点の法華経の断簡を所蔵していますが、この2断簡は同筆です。優美な和様の写経であることから 10 世紀後半ころの書と推定されます。

[断簡]
古筆を切断したもの。
[古筆]
鎌倉時代以前に書かれた優れた書作品。
[和様]
日本的な書風。

58 阿娑縛抄

（あさばしょう）

【区　分】
市指定
【種　別】
典籍
【時　代】
江戸時代
【サイズ】
52 冊、タテ 26.8cm×19.1cm など
【所有者等】
密蔵院
【所在地】
密蔵院
（熊野町 3133）

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦 3 年（1328）慈妙上人（じみょうしょうにん）によって開山されました。阿娑縛抄は天台宗において、正しい仏像や仏画を制作するための図像や儀式の方法などについてまとめた指導書で、理論的かつ実践的に解説されています。鎌倉時代に承澄（しょうちょう）によって 40 年近い長い歳月を経て完成されたものですが、現在原本はなく、写本についても完本は確認されていません。密蔵院に伝わるものは、江戸時代後期、嘉永 4～5 年（1851～1852）に書写されたもので、名古屋城内の尊寿院にあったものを、兼務住職のいた密蔵院に移したものです。現在 52 冊 141 巻が残されていますが、他の寺院にはない部分も現存しておりとても貴重な資料です。

59 銅鐸

（どうたく）

【区　分】
市指定
【種　別】
考古資料
【時　代】
弥生時代
【サイズ】
推定高約 92cm
【所有者等】
神領区
【所在地】
瑞雲寺
（神領町 1 丁目 11-4）

江戸時代末期の安政 5 年（1858）、現在の神領保育園付近で 2 点の銅鐸が発見されました。そのうち状態の良い 1 点は地頭鈴木氏の所有となり、ここに示したもう 1 点の銅鐸が地元に保管されてきました。銅鐸とは本来、紐で吊るし、中に吊るした舌（ぜつ）が鐸（たく）の身に触れて音が鳴る「聞くための鐘」でしたが、次第に大型化して鳴らされなくなり、「見るための鐘」へと変化していきました。この銅鐸は高さ約 92cm と大きく、弥生時代後期の「見るための鐘」で、三河・遠江地方を中心とした地域で多く発見されている「三遠式」と呼ばれる型式のものです。激しく破損していましたが、平成 5 年（1993）に修復復元され、弥生時代の姿がよみがえりました。残念ながら、同時に出土したもう 1 点の銅鐸は現在行方不明になっています。

60 木造十一面観世音菩薩立像

（もくぞうじゅういちめんかんぜおんぼさつりゅうぞう）

【区　分】
市指定
【種　別】
彫刻
【時　代】
鎌倉時代
【サイズ】
像高 108.2cm
【所有者等】
円福寺
【所在地】
円福寺
（白山町 9−1）

白山町の円福寺は奈良時代、養老 7 年（723）創建という伝承をもつ天台宗の寺院です。十一面観音は常に全ての方向をみて、あらゆる人々を救うといわれている仏で、本面の頭上に全ての方向を見ている 10 又は 11 の化仏（けぶつ）を載せています。この像は、カヤ材の一木造（いちぼくづくり）の手法を用い、髪など一部のみに彩色を施した素地仕上げの像で、作風から鎌倉時代後期に制作されたものと推定されます。不動明王と毘沙門天を脇侍とする円福寺観音堂の本尊で、秘仏のため御開帳の期間以外は拝観することが出来ません。

[本面]
中心となる顔。
[化仏]
変化仏とも呼ばれるもので、小型の仏像のこと。
[一木造]
1 本の木を彫り出して作る工法。この像は腕などに別材がはめられている。

61 十一面観世音菩薩立像画像版木

（じゅういちめんかんぜおんぼさつりゅうぞうがぞうはんぎ）

【区　分】
市指定

【種　別】
彫刻

【時　代】
室町時代

【サイズ】
タテ 92.5cm×ヨコ 31.5cm

【所有者等】
円福寺

【所在地】
円福寺
（白山町 9-1）

白山町の円福寺は奈良時代、養老 7 年（723）創建という伝承をもつ天台宗の寺院です。十一面観音は常に全ての方向をみて、あらゆる人々を救うといわれている仏で、本面の頭上に全ての方向を見ている 10 又は 11 の化仏（けぶつ）を載せています。これは摺仏（すりぼとけ）の版木で、彫り出されている観音像は、蓮台の上に立っており、腕釧（わんせん）や瓔珞（ようらく）によって華やかに飾られています。裏の銘文から天文 21 年（1552）に寄進されたことが分かり、室町時代に作られたと推定される非常に貴重なものです。

[本面]
中心となる顔。
[化仏]
変化仏とも呼ばれるもので、小型の仏像のこと。
[摺仏]
仏像などを木版で印刷したもの。
[腕釧]
腕飾り。
[瓔珞]
胸飾り。

62 木造聖観世音菩薩坐像

（もくぞうしょうかんぜおんぼさつざぞう）

【区　分】
市指定
【種　別】
彫刻
【時　代】
平安時代
【サイズ】
像高 62.5cm
【所有者等】
慈眼寺
【所在地】
慈眼寺
（鳥居松町 1 丁目 40）

鳥居松町の慈眼寺は宝永 6 年（1709）年に越伝道付の弟子単伝によって開かれた黄檗宗（おうばくしゅう）の寺院です。聖観世音菩薩とは、観音菩薩のことで、救いを求める人の身近に来て人々を救う慈悲深い菩薩です。この聖観世音菩薩坐像は、檜の一木造によるもので、頭には彫り出しの宝冠を付け、左手で蓮華のつぼみを持っています。ふっくらと温和な顔立ちをしており、全体としてボリュームある体つきをしていることから平安時代中期かそれ以前の作品と推定されます。背と底には「弘法大師作　松寿什物現在単伝求焉」と書かれており、江戸時代中期に何らかの理由によって慈眼寺に移され、客仏になったものと推定されます。なお弘法大師の作品とは考え難く、作者は不明です。

[黄檗宗]
江戸時代前期、中国の僧隠元隆琦（いんげんりゅうき）によって伝えられた禅宗の一派。本山は京都府宇治市にある万福寺。
[一木造]
１本の木を彫り出して作る工法。

63 華鬘

（けまん）

【区　分】
市指定
【種　別】
工芸
【時　代】
江戸時代
【サイズ】
タテ 25.5cm×ヨコ 31.0cm
【所有者等】
密蔵院
【所在地】
密蔵院
（熊野町 3133）

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦 3 年（1328）慈妙上人（じみょうしょうにん）によって開山されました。華鬘とは花飾りのことで、インドでは古くから高貴な人にこれを贈る習慣があり、当初は生花を糸でつないだ花輪でしたが、次第に長持ちするよう木や金属などを材料として作るようになりました。仏教では釈迦やその弟子に対して華鬘を飾り物として贈るようになりましたが、やがて仏塔や仏殿の飾りとしても使われるようになりました。これは真鍮製で団扇（うちわ）形をしており、蓮華唐草文（れんげからくさもん）が透かし彫りされています。刻まれた銘文から元和 5 年（1619）に制作されたことが分かります。

64 木造薬師如来坐像

（もくぞうやくしにょらいざぞう）

【区　分】
市指定
【種　別】
彫刻
【時　代】
平安時代
【サイズ】
像高 141.5cm
【所有者等】
高蔵寺
【所在地】
高蔵寺
（高蔵寺町北5丁目 1039）

燈明山高蔵寺は平安時代中頃、承平 3 年（933）に創建された天台宗の寺院です。薬師如来は一般に病気を治す仏として信仰されていますが、本来は病人だけでなく広く人々を救済するといわれている仏です。この薬師如来像は檜材の寄木造（よせぎづくり）の手法でつくられている素木（しらき）の像で、眼には玉眼（ぎょくがん）がはめられています。細身で引き締まった体つきで、バランス良く安定感があり、繊細で気品のある雰囲気をもっています。その作風から、平安時代後期に円派によって制作されたものと推定されます。

[寄木造]
いくつかの部品に分けて作り、内部をくりぬいてから接ぎ合わせる工法。
[素木]
彩色等がされていないもの。
[玉眼]
水晶などの玉を眼の部分にはめこみ質感を出したもの。
[円派]
定朝の弟子にあたる仏像彫刻家。

65 玉野山車附からくり

（たまのだしつけたりからくり）

【区　分】
市指定
【種　別】
有形民俗
【時　代】
江戸時代
【サイズ】
高 515.5cm、前間 1.66m、横間 2.43m
【所有者等】
玉野郷土芸能保存会
【所在地】
玉野町郷倉
（玉野町 1402-1）

この山車（だし）は、玉野町の玉野郷土芸能保存会の手によって大切に保存・伝承されてきたものです。構造は、外輪形式といって山車本体の外側に車輪がつくもので、名古屋地区に多いものです。また、屋根が固定式で上げ下げが出来ない点、高欄（こうらん）はあるが彫り物が比較的少ない点など素朴な造りをしていることから、名古屋地区では初期の山車と推定され、残存例が少ない貴重なものです。また、この山車は江戸時代後期に作られたと推定されるからくり人形「唐子」(2 階)、「恵比寿」、「大黒天と瓶(かめ)」(3 階)を搭載しています。制作者等は不明ですが、恵比須と大黒天が釣りに出かけるというストーリーで、非常に精巧なからくりが観る人の眼を楽しませてくれます。

[高欄]
転落を防止するための柵で、装飾用に使われる場合もある。

66 下原古窯跡群

（しもはらこようせきぐん）

【区　分】
市指定
【種　別】
史跡
【時　代】
古墳時代
【サイズ】
ー
【所有者等】
個人（管理者　春日井市）
【所在地】
桃花園北西（愛知県農協総合グランド北）
（東山町 2336-1、3 及び 2337）

下原古窯跡群は、春日井市北西の丘陵地帯に所在する古墳時代を中心とする須恵器（すえき）の焼成窯です。須恵器は、5 世紀に朝鮮半島から伝わり、ロクロを使って成形し、窯で焼成する焼き物です。硬質で青灰色に焼きあがり、今日の陶器の祖形にあたります。発掘調査により、11 基の窯と灰原（はいばら）が確認され、多量の須恵器や埴輪が出土しましたが、現在は 5 基の窯と灰原が現地保存されています。特に 3 号窯は保存状態がよく、焚口付近から煙道までと天井の一部が残っており、天井の断面や壁面に粘土を貼りつけて補修した痕跡も確認されています。下原古窯で焼かれた埴輪は全国的にもめずらしい須恵質埴輪とよばれるもので、味美二子山古墳を始めとする古墳へ供給されていたことが分かっています。中には 10㎏を超える埴輪もありますが、味美二子山古墳へは生地川・八田川の水路を利用して運んだと推定されます。このように、生産地と供給地が明らかな事例は極めて貴重です。

[灰原]
窯からかき出された失敗作品などがたまったもの。

67 築水池のシデコブシ自生地

（ちくすいいけのしでこぶしじせいち）

【区　分】
市指定
【種　別】
天然記念物
【時　代】
ー
【サイズ】
ー
【所有者等】
春日井市
【所在地】
築水池周辺
（廻間町 1102-1）

シデコブシはモクレン科に属する落葉小高木で、花は3月下旬から4月上旬に開葉に先立って咲き、白色または桃紅色で芳香があります。一見するとコブシと区別がつきにくいですが、花の色が淡いものから濃いものまで幅広い点、花弁が細く縮れたような形状で、数も10～20枚と多い点などの特徴から見分けることができます。日本固有の依存種で、主に東海3県(愛知、岐阜、三重)の限られた地域にのみ自生する貴重な植物で、かつては春日井市の東部丘陵や瀬戸市、岐阜県東濃地方の湿地で、群生が数多く確認されていましたが、乱獲や湿地の減少により自生地が激減してしまいました。現在春日井市内では、玉野町、木附町、西尾町の一部に見ることができますが、中でも築水池周辺の指定地は250株以上が群生する市内最大の自生地です。

68 木造観音菩薩立像

（もくぞうかんのんぼさつりゅうぞう）

【区　分】
市指定

【種　別】
彫刻

【時　代】
平安時代

【サイズ】
像高 128.0cm

【所有者等】
退休寺

【所在地】
退休寺
（大泉寺町 1028-4）

大泉寺町にある賜恩山退休寺は浄土宗の寺院で、創建したのは尾張藩士の小野沢五郎兵衛です。この観音菩薩立像は平安時代中期に造られた檜の一木造の像で、表面は素地のまま仕上げられています。この像は、一木部分を比較的よく残しており、後頭部と背面に木の節があることから霊木で造られたものと推測され、この地方で造られ古くから地域の人々に信仰され大事に守られてきた像であったと考えられています。退休寺観音堂の本尊として祀られ、秘仏とされています。

[一木造]
１本の木を彫り出して作る工法。

69 木造地蔵菩薩立像

（もくぞうじぞうぼさつりゅうぞう）

【区　分】
市指定
【種　別】
彫刻
【時　代】
平安時代
【サイズ】
像高 48.5cm
【所有者等】
退休寺
【所在地】
退休寺
（大泉寺町 1028-4）

大泉寺町にある賜恩山退休寺は浄土宗の寺院で、創建したのは尾張藩士の小野沢五郎兵衛です。この地蔵菩薩立像は頭と体部を一材で造り前後で割る割矧造（わりはぎづくり）で、肉身部や沓には金箔、衣服には截金が施されていますが、当初は彩色像であったと思われます。作風から平安時代後期に制作されたものと推定されますが、沓を履く像は類例が少なく、当初から沓を履いていたとみられるこの像は非常にめずらしい作品です。

[割矧造]
一本の木からおおよその形を彫刻した後に前後に割り、内部をくりぬいてから再びもとのように接ぎ合わせる技法。

70 木造阿弥陀如来立像

（もくぞうあみだにょらいりゅうぞう）

【区　分】
市指定

【種　別】
彫刻

【時　代】
平安時代

【サイズ】
像高 35.4cm

【所有者等】
退休寺

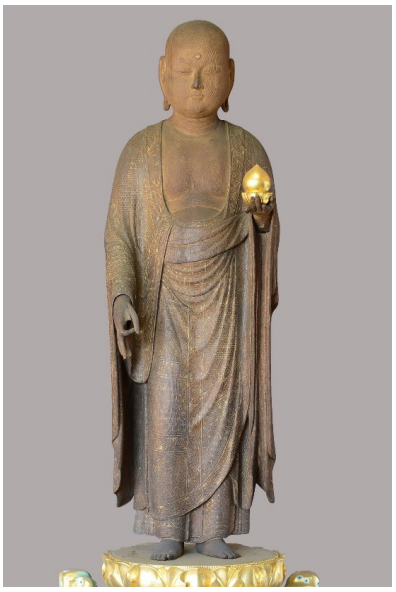
【所在地】
退休寺
（大泉寺町 1028-4）

大泉寺町にある賜恩山退休寺は浄土宗の寺院で、創建したのは尾張藩士の小野沢五郎兵衛です。この阿弥陀如来立像は檜の一木造で、来迎印（らいごういん）を結んでいます。表面には金箔(後補)が施されていますが、作風から平安時代後期に制作されたものと推定され、小さいながらも姿形は京都府宇治市の地蔵院の阿弥陀如来立像などに近い都風の像で、造形的に素晴らしい作品です。

[一木造]
１本の木を彫り出して作る工法。
[来迎印]
左右の手ともに第１指、第２指を結び、右手を挙げ、左手を下げた形。阿弥陀如来が来迎するときの印相。

71 木造地蔵菩薩立像

（もくぞうじぞうぼさつりゅうぞう）



【区　分】
市指定

【種　別】
彫刻

【時　代】
平安～鎌倉時代

【サイズ】
像高 95.0cm

【所有者等】
日輪寺

【所在地】
日輪寺
（二子町 2-12-3）

二子町にある光雲山日輪寺は天台宗の寺院です。この地蔵菩薩立像は、頭と体部を一材で造り前後で割る割矧造（わりはぎづくり）で、表面は素地のまま仕上げられています。表面に施された截金(後補)には、金箔の下に銀を重ねて箔打ちするという技法が用いられています。作風から平安時代末期から鎌倉時代初期に制作されたものと推定され、日輪寺の本尊として祀られ、秘仏とされています。

[割矧造]
一本の木からおおよその形を彫刻した後に前後に割り、内部をくりぬいてから再びもとのように接ぎ合わせる技法。

72 木造十一面観音菩薩立像

（もくぞうじゅういちめんかんのんぼさつりゅうぞう）

【区　分】
市指定
【種　別】
彫刻
【時　代】
平安時代 11 世紀
【サイズ】
本体像高 54.8 ㎝
【所有者等】
円福寺
【所在地】
円福寺
（白山町 9-1）

白山町にある円福寺は、養老7年(723)開創と伝えられる天台宗の寺院です。
この十一面観音菩薩立像は、ヒノキ材の一木造で、顔は厳しい表情にあらわされ、平安前期の面影を残していますが、側面の厚みが減じており、衣文の彫も浅く整理されていることから、制作年代は平安時代(11世紀半ば頃)と推定されます。隣接する白山神社に祀られた神の本地仏だったものが、円福寺に移されたと考えられます。
本像とともに伝来する僧形坐像と女神坐像も白山信仰に基づく造像と考えられ、平安時代に遡る同信仰の遺例がまとまった形で伝来するのは貴重であり、この地に白山の神を勧請した時期や、円福寺と白山神社との関係を考えるうえでも重要な像です。

[一木造]
１本の木を彫り出して作る工法。
[本地仏]
仏や菩薩が人々を救済するためにとる神などの仮の姿に対し、神の本地（本来の姿）であるとされる仏・菩薩。
[白山信仰]
古くからある白山（石川県、岐阜県にまたがる山）を霊峰とする信仰。白山の山岳信仰と修験道が融合した神仏習合の神が白山権現（白山妙理権現）であり、その本地仏が十一面観音菩薩像である。

73 木造僧形坐像

（もくぞうそうぎょうざぞう）

【区　分】
市指定
【種　別】
彫刻
【時　代】
平安時代 11 世紀
【サイズ】
本体像高 29.5 ㎝
【所有者等】
円福寺
【所在地】
円福寺
（白山町 9-1）

白山町にある円福寺は、養老7年(723)開創と伝えられる天台宗の寺院です。
この僧形坐像は、ヒノキ材の一木造で、目鼻口の造形、顔の表情に厳しさをのこす点、また像の量感を減じた側面観などから、制作年代は平安時代(11世紀半ば頃)と推定されます。隣接する白山神社に祀られた神像が円福寺に移されたと考えられます。
本像とともに伝来する十一面観音菩薩立像と女神坐像も白山信仰に基づく造像と考えられ、平安時代に遡る同信仰の遺例がまとまった形で伝来するのは貴重であり、この地に白山の神を勧請した時期や、円福寺と白山神社との関係を考えるうえでも重要な像です。

[一木造]
１本の木を彫り出して作る工法。
[白山信仰]
古くからある白山（石川県、岐阜県にまたがる山）を霊峰とする信仰。白山の山岳信仰と修験道が融合した神仏習合の神が白山権現（白山妙理権現）であり、その本地仏が十一面観音菩薩像である。

74 木造女神坐像

（もくぞうじょしんざぞう）

【区　分】
市指定
【種　別】
彫刻
【時　代】
平安時代 12 世紀
【サイズ】
本体像高 32.8 ㎝
【所有者等】
円福寺
【所在地】
円福寺
（白山町 9-1）

白山町にある円福寺は、養老7年(723)開創と伝えられる天台宗の寺院です。
この女神坐像は、ヒノキ材の一木造で、ふっくらとした丸い面部の中央に目鼻を集める相好や厚みのある量感表現などから、12世紀前半頃の制作と推測されます。八百比丘尼像として伝来した像ですが、八百比丘尼伝説それ自体が江戸期以降の史料にしか見えないことから、本来は隣接する白山神社に祀られた神像であると考えられます。
本像とともに伝来する十一面観音菩薩立像と僧形坐像も白山信仰に基づく造像と考えられ、平安時代に遡る同信仰の遺例がまとまった形で伝来するのは貴重であり、この地に白山の神を勧請した時期や、円福寺と白山神社との関係を考えるうえでも重要な像です。

[一木造]
１本の木を彫り出して作る工法。
[白山信仰]
古くからある白山（石川県、岐阜県にまたがる山）を霊峰とする信仰。白山の山岳信仰と修験道が融合した神仏習合の神が白山権現（白山妙理権現）であり、その本地仏が十一面観音菩薩像である。

75 円福寺観音堂厨子

（えんぷくじかんのんどうずし）

【区　分】
市指定
【種　別】
建造物
【時　代】
室町時代 後期
【サイズ】
正面1間（1,182mm）、
側面1間（999mm）
【所有者等】
円福寺
【所在地】
円福寺
（白山町 9-1）

白山町にある円福寺は、養老7年（723）開創と伝えられる天台宗の寺院です。
円福寺観音堂に安置されている厨子は、本尊の十一面観音菩薩立像を祀るためのものです。
入母屋造、妻入で、木製本瓦葺の屋根の棟には鯱が置かれています。純粋な禅宗様で造られた宮殿（くうでん）型厨子で、建造年次を示す資料はありませんが、様式的には室町時代後期のものと推定され、円福寺が隆盛期を迎えた十五世紀末頃の建造と考えられます。元禄8年（1695）の年記がある観音堂の棟札には「奉修復本堂内陣宮殿仏壇幷天井四方之壁等所」の記載があり、この時に修復が行われたことが知られます。

[本瓦葺]
凹面の平瓦（上下に少し重ねて並べる）と、その接ぎ目に伏せる半円形の丸瓦で葺き上げるもの。
[宮殿型厨子]
仏堂を小さくしたような形の厨子。

76 旧中央線のイロハモミジ

（きゅうちゅうおうせんのいろはもみじ）

【区　分】
市指定
【種　別】
天然記念物
【時　代】
ー
【サイズ】
①樹高 17.0m、幹周 2.29m
②樹高 17.5m、幹周 1.59m
③樹高 16.3m、幹周 1.84m
④樹高 13.2m、幹周 1.29m
【所有者等】
特定非営利活動法人愛岐トンネル群保存再生委員会
【所在地】
旧中央線玉野第四隧道東坑門
（玉野町字東谷 1667-1）

旧中央線第四隧道（4号トンネル）東坑門に近接して4本の大木が密集し、煉瓦積みによる明治時代の鉄道トンネルと一体的な景観を成しています。4本のイロハモミジは、樹高 13.2m から 17.5m、幹周りは 1.29m から 2.29m であり、幹周り 2.29m は市内最大の大きさです。
また、明治 33(1900)年中央線の開通後に芽生えたと考えられ、推定樹齢約 120 年の市内最古のイロハモミジです。
樹枝は、庄内川の渓谷に向かって大きく張り出すように伸び、曲線を基調とした見事な枝ぶりを成しており、観る方向や角度によって樹形が大きく変化する点も本樹の特徴です。